

四半期報告書

(第48期第2四半期)

自 2019年8月1日

至 2019年10月31日

株式会社ロック・フィールド

神戸市東灘区魚崎浜町15番地2

(E00482)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	5

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	8
2 役員の状況	8

第4 経理の状況

9

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	12
四半期連結損益計算書	12
四半期連結包括利益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14

2 その他

16

第二部 提出会社の保証会社等の情報

17

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年12月11日
【四半期会計期間】	第48期第2四半期（自 2019年8月1日 至 2019年10月31日）
【会社名】	株式会社ロック・フィールド
【英訳名】	ROCK FIELD CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古塚 孝志
【本店の所在の場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435－2800
【事務連絡者氏名】	管理本部副本部長 新部 雅彦
【最寄りの連絡場所】	神戸市東灘区魚崎浜町15番地2
【電話番号】	（代表）（078）435－2800
【事務連絡者氏名】	管理本部副本部長 新部 雅彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期連結累計期間	第48期 第2四半期連結累計期間	第47期
会計期間	自2018年5月1日 至2018年10月31日	自2019年5月1日 至2019年10月31日	自2018年5月1日 至2019年4月30日
売上高 (百万円)	24,973	25,109	50,978
経常利益 (百万円)	992	773	2,461
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	750	490	1,732
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	727	484	1,680
純資産額 (百万円)	27,778	28,379	28,492
総資産額 (百万円)	33,823	36,005	34,629
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	28.26	18.45	65.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	82.1	78.8	82.3
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	1,672	1,499	3,330
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	△304	△2,815	△1,081
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	△797	944	△1,210
現金及び現金同等物の四半期 末(期末)残高 (百万円)	13,573	13,660	14,042

回次	第47期 第2四半期連結会計期間	第48期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自2018年8月1日 至2018年10月31日	自2019年8月1日 至2019年10月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	15.95	8.69

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2019年5月1日～2019年10月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復が続いているものの、米中貿易摩擦の再激化、長期化する英国のEU離脱問題などの動向に加え、消費税率引き上げによる個人消費の落ち込みなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

中食・惣菜業界におきましては、市場の拡大に伴い食品スーパーやコンビニエンスストアなどの惣菜販売強化、外食産業では、消費税増税時に導入された軽減税率の対象となる持ち帰り商品や宅配・ケータリングの強化など、他業種からの新規参入による競争がますます激化しております。

このような状況の中、当社グループは「The Mirai Salad Company」として、より高品質な商品提案・健康的で豊かな食卓提案を通して、お客様の豊かなライフスタイルの創造に貢献できるように取り組んでまいりました。第2四半期には野菜を中心としたバランスの良い食卓の提案として、季節感・素材・色合い・価格帯のバランスなど、販売ケース内での選び易さを考慮した商品の展開を行いました。併せて、お客様の来店頻度アップの取り組みとして、商品の価格帯幅を拡げ、平日には日常の食事に活用いただける商品や、週末などのハレの日のニーズに合った商品の提案を行いました。また、日本の伝統や食文化を取り入れた和そうざいのニーズの高まりに対して、いとはんブランドの店舗を新たに3店舗新規出店しました。しかしながら、昨年から続く百貨店など商業施設への来店客数の減少や郊外立地の百貨店の閉店、台風19号などの相次ぐ自然災害の影響と併せて、一部原材料価格の上昇や人手不足を背景とした人件費・物流費の上昇などの影響により、厳しい経営環境が続きました。

ブランド別の売上は次のとおりであります。

ブランド		2019年4月期 第2四半期（連結）		2020年4月期 第2四半期（連結）		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
R F 1		百万円	%	百万円	%	%
	サラダ	9,017	36.1	8,746	34.9	97.0
	フライ	3,456	13.9	3,378	13.5	97.7
	その他そうざい	3,603	14.4	3,808	15.2	105.7
	小計	16,077	64.4	15,933	63.6	99.1
グリーン・グルメ		4,159	16.7	4,378	17.5	105.3
いとはん		1,758	7.0	1,835	7.3	104.4
神戸コロッケ		1,416	5.7	1,418	5.6	100.2
ベジテリア		752	3.0	703	2.8	93.6
融合		576	2.3	517	2.0	89.8
その他		233	0.9	322	1.2	137.9
合計		24,973	100.0	25,109	100.0	100.5

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「R F 1」ブランドにおきましては、「野菜は、多才。」をテーマに、素材の旨みを凝縮させるために、素材ごとに下味を工夫し、素材ごとの適温を考慮して加熱するなど、野菜の美味しさを引き出す様々な調理方法で、食卓における新しい野菜の楽しみ方を提案しました。合わせて、「カラダを想う日」と題して「緑の30品目サラダ」を販売強化した「野菜の日販促（8月31日）」や、お家で作れるキット化されたサラダ「作るを楽しむSALAD」のご愛顧感謝キャンペーンを実施しました。また、「R F 1」ブランドから「グリーン・グルメ」ブランドへの業態変更により、売上高98百万円が「R F 1」ブランドから「グリーン・グルメ」ブランドの売上高となり、売上高は15,933百万円（前年同期比0.9%減）となりました。

「グリーン・グルメ」ブランドにおきましては、「R F 1」ブランドのサラダを中心とした品揃えに、「いとはん」ブランド、「融合」ブランドのサラダ・料理の販売強化を行いました。また、第43期より進めております「R F 1」ブランドから「グリーン・グルメ」ブランドへの業態変更の影響などにより、売上高は4,378百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

「いとはん」ブランドにおきましては、「旬を、冒険しよう。」をテーマに、その時期だけの特別な味わいの素材を、意外な素材と組み合わせることで、美味しくてからだにも嬉しい新しい旬の提案を行いました。なかでも「無花果」「秋刀魚」「きのこ」といった季節感のある素材を使用したサラダや料理の販売を強化し、売上高は1,835百万円（前年同期比4.4%増）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、「創業30周年特別企画」として、創業からの想いを繋げる「すき焼きコロッケ」や「カレーコロッケ」などの復刻コロッケの提案や、「新じゃがをめぐるのがたり」をテーマに、生産者や当社のじゃがいもへのこだわりをお伝えし、新じゃがの良さを最大限に活かすコロッケの提案を行い、売上高は1,418百万円（前年同期比0.2%増）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、「おいしい、秋のはじまり。」をテーマに、巨峰やいちじくなど旬の素材のおいしさを活かしたジュースの提案や、「秋のカラダが喜ぶ一杯。」をテーマに、ケールやさつまいもなど素材の栄養をしっかりと訴求したジュースの提案、「食事にプラスがいいジュース」をテーマに、ご自宅や職場でのお食事に合わせて飲んでいただける冷蔵保存可能なジュースの提案などを行いました。売上高は703百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

「融合」ブランドにおきましては、「アジアの風味で野菜を愉しむ」をテーマに、アジア特有のスパイスを使用した多様な野菜料理の提案や、「アジアの豊かな米文化をめしあがれ。」をテーマに、東南アジアに広がるお米を使用した多様な商品の提案を行いました。売上高は517百万円（前年同期比10.2%減）となりました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高25,109百万円（前年同期比0.5%増）、営業利益は732百万円（前年同期比24.6%減）、経常利益は773百万円（前年同期比22.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は490百万円（前年同期比34.7%減）となりました。

なお、当社グループはそうざい事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

（注）上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べて1,376百万円増加し、36,005百万円となりました。これは主に、2020年5月末竣工予定の静岡ファクトリー第4棟建設による有形固定資産の増加2,134百万円、現金及び預金の減少362百万円、売掛金の減少346百万円、原材料及び貯蔵品の減少201百万円等によるものです。

負債合計は前連結会計年度末と比べて1,489百万円増加し、7,626百万円となりました。これは主に、買掛金の減少55百万円、法人税等の支払による未払法人税等の減少129百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）の増加1,735百万円等によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末と比べて112百万円減少し、28,379百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加490百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少611百万円等によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は78.8%、1株当たり純資産額は1,067円90銭となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて382百万円減少し、13,660百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,499百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益773百万円、減価償却費830百万円、法人税等の支払額408百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2,815百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,662百万円、長期前払費用の取得による支出80百万円、差入保証金の差入による支出41百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、944百万円となりました。これは主に、長期借入れによる収入2,000百万円、配当金の支払額610百万円、長期借入金の返済による支出265百万円等によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は86百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、新たに経営成績に重要な影響を与える事象は発生しておりません。

(8) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、主に百貨店との売上に関する契約等に基づき安定的に売上金の回収を行っております。また、直営店におきましては現金販売が中心となっているため、早期にキャッシュの回収を行うことができ、それにより仕入及び人件費の支払に関する運転資金は売上金の回収から得られたキャッシュから支出可能な状況にあります。

当第2四半期連結累計期間の各キャッシュ・フローの詳しい状況につきましては、「(3) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数（株） （2019年10月31日）	提出日現在発行数（株） （2019年12月11日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,788,748	26,788,748	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	26,788,748	26,788,748	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
2019年8月1日～ 2019年10月31日	—	26,788,748	—	5,544	—	5,861

(5) 【大株主の状況】

2019年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社岩田	兵庫県芦屋市大原町17-18	2,300	8.65
ロック・フィールド取引先持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	1,329	5.00
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	1,312	4.93
株式会社四国銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	高知県高知市南はりまや町1-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	1,242	4.67
岩田 弘三	兵庫県芦屋市	784	2.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	622	2.34
ロック・フィールド社員持株会	神戸市東灘区魚崎浜町15-2	573	2.15
三菱UFJリース株式会社	東京都千代田区丸の内1-5-1	482	1.81
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3-11-1)	433	1.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-11	432	1.62
計	—	9,513	35.79

(注) 1. 株式会社岩田は、当社代表取締役役会長岩田弘三が株式の100%を保有する会社であります。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	622千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	432千株

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年10月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 213,100	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 26,561,900	265,619	—
単元未満株式	普通株式 13,748	—	1 単元 (100株) 未満の株式
発行済株式総数	26,788,748	—	—
総株主の議決権	—	265,619	—

(注) 1. 「完全議決権株式 (その他)」の「株式数」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。また、「議決権の数」の欄には当該株式に係る議決権の数24個が含まれております。

2. 「単元未満株式」の「株式数」の欄には自己株式70株が含まれております。

② 【自己株式等】

2019年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社 ロック・フィールド	神戸市東灘区魚崎 浜町15番地 2	213,100	—	213,100	0.80
計	—	213,100	—	213,100	0.80

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年8月1日から2019年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年5月1日から2019年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,442	14,080
売掛金	4,406	4,060
製品	68	71
仕掛品	95	186
原材料及び貯蔵品	643	442
その他	225	222
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	19,881	19,061
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,266	7,184
土地	2,948	2,948
その他（純額）	2,515	4,732
有形固定資産合計	12,729	14,864
無形固定資産		
その他	212	221
無形固定資産合計	212	221
投資その他の資産		
その他	1,815	1,868
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	1,805	1,858
固定資産合計	14,747	16,944
資産合計	34,629	36,005
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,336	1,280
1年内返済予定の長期借入金	115	360
未払法人税等	527	397
賞与引当金	539	556
その他	3,056	3,001
流動負債合計	5,574	5,596
固定負債		
長期借入金	—	1,490
その他	562	539
固定負債合計	562	2,029
負債合計	6,136	7,626

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,866	5,871
利益剰余金	17,182	17,061
自己株式	△205	△196
株主資本合計	28,387	28,280
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47	55
為替換算調整勘定	57	43
その他の包括利益累計額合計	104	99
純資産合計	28,492	28,379
負債純資産合計	34,629	36,005

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
売上高	24,973	25,109
売上原価	10,422	10,593
売上総利益	14,551	14,516
販売費及び一般管理費	※ 13,580	※ 13,784
営業利益	970	732
営業外収益		
受取配当金	5	10
保険配当金	10	16
為替差益	—	7
その他	9	11
営業外収益合計	25	46
営業外費用		
支払利息	0	4
為替差損	2	—
その他	1	0
営業外費用合計	4	4
経常利益	992	773
特別利益		
投資有価証券売却益	157	—
特別利益合計	157	—
税金等調整前四半期純利益	1,150	773
法人税等	399	283
四半期純利益	750	490
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	750	490

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
四半期純利益	750	490
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24	7
為替換算調整勘定	1	△13
その他の包括利益合計	△22	△5
四半期包括利益	727	484
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	727	484
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,150	773
減価償却費	825	830
賞与引当金の増減額 (△は減少)	46	17
受取利息及び受取配当金	△5	△10
支払利息	0	4
投資有価証券売却損益 (△は益)	△157	—
売上債権の増減額 (△は増加)	255	345
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△67	107
仕入債務の増減額 (△は減少)	88	△54
その他	△20	△104
小計	2,116	1,908
利息及び配当金の受取額	5	5
利息の支払額	△0	△6
法人税等の支払額	△449	△408
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,672	1,499
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△20	△20
投資有価証券の売却による収入	173	—
有形固定資産の取得による支出	△376	△2,662
無形固定資産の取得による支出	△43	△34
長期前払費用の取得による支出	△51	△80
差入保証金の差入による支出	△8	△41
差入保証金の回収による収入	22	8
その他	△0	14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△304	△2,815
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	2,000
長期借入金の返済による支出	△3	△265
リース債務の返済による支出	△189	△180
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△604	△610
財務活動によるキャッシュ・フロー	△797	944
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	567	△382
現金及び現金同等物の期首残高	13,005	14,042
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 13,573	※ 13,660

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
給料及び賞与	4,850百万円	4,911百万円
賞与引当金繰入額	400	402
支払手数料	3,233	3,240

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)
現金及び預金勘定	13,993百万円	14,080百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	△420	△420
現金及び現金同等物	13,573	13,660

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年5月1日 至 2018年10月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年7月26日 定時株主総会	普通株式	610	23	2018年4月30日	2018年7月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年12月11日 取締役会	普通株式	239	9	2018年10月31日	2019年1月18日	利益剰余金

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2019年5月1日 至 2019年10月31日）

1. 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年7月25日 定時株主総会	普通株式	611	23	2019年4月30日	2019年7月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年12月11日 取締役会	普通株式	239	9	2019年10月31日	2020年1月17日	利益剰余金

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 2018年5月1日 至 2018年10月31日）及び当第2四半期連結累計期間（自
2019年5月1日 至 2019年10月31日）

当社グループは、そうざい事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自 2018年5月1日 至 2018年10月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2019年5月1日 至 2019年10月31日）
1株当たり四半期純利益	28円26銭	18円45銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益 （百万円）	750	490
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益（百万円）	750	490
普通株式の期中平均株式数（株）	26,562,500	26,569,972

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2 【その他】

2019年12月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（イ）配当金の総額……………239百万円

（ロ）1株当たりの金額……………9円00銭

（ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2020年1月17日

（注）2019年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年12月 3 日

株式会社ロック・フィールド

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

伊東 昌一

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

川添 健史

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロック・フィールドの2019年5月1日から2020年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年8月1日から2019年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年5月1日から2019年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロック・フィールド及び連結子会社の2019年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。